

# 『国立歴史民俗博物館研究報告』(第101集～第130集)総目次

(正体数字は横組, 斜体数字は縦組のページ数)

## 第101集 村と戦場 共同研究「近現代の兵士の実像Ⅰ」(2003年3月発行)

総論	藤井忠俊	1-9
1 兵士と村		
軍事郵便にみる兵士——高橋峯次郎宛通信をおもな素材として——	鹿野政直	13-60
軍事郵便に見る兵士と戦場論	山辺昌彦	61-72
一画業兵の従軍記——画家・斎藤千代夫の戦場	佐野賢治	73-109
日赤看護婦と陣中日誌——語りと記録の資料論・試論——	新谷尚紀	111-163
2 銃後の村		
村発信の特異な在郷軍人分会誌——戦場と交信した『真友』の発見と分析——	藤井忠俊	167-192
青年訓練所・青年学校と高橋峯次郎	米田俊彦	193-209
高橋峯次郎と七千通の軍事郵便	小田嶋恭二	211-230
農民兵士の生と死——北上市の二人の手紙より——	関沢まゆみ	231-283
昭和期の徴兵・兵事史料から見た兵士の見送りと帰還	吉良芳恵	285-305
女子医学生達の銃後——東京女子医学専門学校の夏季無料診療活動——	宮崎順子	307-326
資料		
軍事郵便発信人一覧	宮本正明	329-341
軍事郵便の解題と翻刻		
1 高橋善一	小田嶋恭二	343-384
2 高橋徳兵衛	小田嶋恭二	385-415
3 高橋忠光	小田嶋恭二	417-450
4 高橋徳松	佐藤憲一	451-482
5 加藤寛一	佐藤憲一	483-493
6 加藤孝志	山辺昌彦	495-519
7 高橋千太郎	鹿野政直・関沢まゆみ	521-550
『真友』・資料紹介	宮本正明	551-831
北上市地域の戦没者と戦争記念碑について	小田嶋恭二	833-838

## 第102集 慰霊と墓 共同研究「近現代の兵士の実像Ⅱ」(2003年3月発行)

基幹研究としての戦争研究の経過と概要	新井勝紘	1-4
経過概要	一ノ瀬俊也	5-8
1 陸海軍墓地		
旧真田山陸軍墓地変遷史	横山篤夫	11-95
陸海軍墓地制度史	原田敬一	97-160
大阪府内の高槻と信太山の陸軍墓地	横山篤夫・森下 徹	161-186
資料紹介		
旧真田山陸軍墓地概要図・墓碑銘文一覧		187-452
旧真田山陸軍墓地被葬者遺族からの聞き取り	横山篤夫	453-468
仙台陸軍墓地調査報告	佐藤憲一	469-477
金沢陸軍墓地調査報告	本康宏史	479-489
調査研究活動報告		
全国陸海軍墓地一覧	山辺昌彦	611-696

2 慰霊

兵士の「遺体」と兵士の「遺霊」	波平恵美子	493-514
慰霊のモニュメントと「銃後」社会——石川県における忠霊塔建設運動——	本康宏史	515-549
旧藩における護国神社の創建——群馬県邑楽護国神社の事例から——	今井昭彦	551-591
紙の忠魂碑——市町村刊行の従軍者記念誌——	一ノ瀬俊也	593-610

**第103集 都市の地域特性の形成と展開過程——近世以降の流通と文化を中心に——**  
**共同研究「日本における都市生活史の研究」** (2003年3月発行)

共同研究の経緯と概要	上野和男	1-10
第I部 論考		
南九州における戦国・織豊期城下町と権力	千田嘉博	13-32
萩城下の雇用労働と瀬戸内海地域	森下 徹	33-56
商品流通と「着値」——遠隔地間取引における荷主の価格計算・損益管理——	岩田浩太郎	57-77
長崎くんち考——城下町祭礼としての長崎くんち——	久留島浩	79-115
近世城下町における祭礼と行楽	小林文雄	117-132
武家屋敷の神仏公開と都市社会	岩淵令治	133-200
観光地としての東京	山本光正	201-236
都市と道祖神信仰	倉石忠彦	237-262
青森ねぶたの現代的変容	阿南 透	263-299
沖縄都市の職業構造	波平勇夫	301-324
モーニングの都市民俗学	島村恭則	325-348
都市民俗生活誌の可能性	内田忠賢	349-357
第II部 シンポジウムの報告		
マチ場の感覚表現と民俗——板橋を中心に——	小林忠雄	361-374
関東の伝統的・地方都市の地域特性——川越と佐原を中心に——	上野和男	375-387
三都と地方城下町の文化的関係——書物の流通を素材に——	横田冬彦	389-408
言語地理学からみた利根川下流域——上方語系語形式の残存に焦点をあてて——	中井精一	409-423
近世における東廻り航路と銚子港町の変容	斎藤善之	425-445
江戸の積問屋と舂下宿	吉田伸之	447-454

**第104集 共同研究「室町期荘園制の研究」** (2003年3月発行)

共同研究の経過と概要	高橋一樹	1-4
中世後期荘園制論の成果と課題	伊藤俊一	5-15
室町期東国本所領荘園の成立過程——室町期再版荘園制論の提起——	井原今朝男	17-41
室町初期における荘園の再編——金剛峯寺領紀伊国官省符庄の場合——	山陰加春夫	43-68
香取社領の検注帳について	鈴木哲雄	69-92
鎌倉後期～南北朝期における本家職の成立	高橋一樹	93-111
建武政権期東大寺の東国所領獲得交渉——真福寺所蔵『八生一生得菩提事』紙背文 書を通して	福島金治	113-134
荘園制と悪党	高橋典幸	135-150
東国荘園における当知行と職	福島紀子	151-168
江馬氏館と江馬氏——室町期の国人領主と館——	小島道裕	169-183
室町期東国の荘園公領制と「郷村」社会——上総国を事例として——	湯浅治久	185-221
中世後期の九条家家僕と九条家領荘園——九条政基・尚経期を中心に——	廣田浩治	223-248
室町期における東海荘園の知行構造	山本隆志	249-272

<b>第105集 共同研究「アジア地域における環境とその民族的プラクシス」</b> (2003年3月発行)		
共同研究の経過と概要	篠原 徹	1-5
総論	篠原 徹	7-12
環境と生活		
野生と栽培を結ぶ開かれた扉——焼畑周辺をめぐる植物利用からみた栽培化に 関する一考察——	西谷 大	15-56
生業活動と「かかわりの自然空間」——曖昧で不安定な河川空間をめぐる——	関 礼子	57-87
実践知識を背景とした環境への権利——宮古島潜水漁業者と観光ダイバーの確執 と自然観——	竹川大介	89-122
「両テンビン」世帯の人々——とりまく資源に関連する複合性への志向——	卯田宗平	123-158
環境と認識		
民俗分類の思考——魚の成長段階名とドメスティケーション——	安室 知	161-194
日本と中国における金魚観賞とその選評基準	野地恒有	195-213
シロバエ考——底延縄漁師の漁場認識とフォーク・モデルの意義——	中野 泰	215-266
図像化された動物——オオカミの表象と形態認識——	菱川晶子	267-294
環境と歴史		
明治期における京都府内の植生景観変化の背景	小椋純一	297-317
北上山地山村における森林利用の諸相	岡 恵介	319-355
「水辺」の開拓史——近世中期における掘り上げ水田工法の発展とその要因——	菅 豊	357-380
<b>第106集 国際シンポジウム「東アジアにおける文化交流——儒教思想と民間説話——」</b> (2003年3月発行)		
刊行にあたって		
基調講演		
民間信仰における儒教と道教——中国・台湾・琉球——	比嘉政夫	
民間説話の伝播と変容	坂出祥伸	3-11
伊藤清司		13-23
シンポジウムⅠ 民間説話を中心に		
クロンドン・シンソンビ(蛇婿入り)譚に表れた儒教思想	崔 仁鶴	27-35
《絵姿女房譚》と中国の類話	千野明日香	37-50
現代民話の日韓比較	島村恭則	51-60
幽霊のいる現代空間で生きる——中国の現代民話についての社会学的研究——	趙 丙祥	61-70
討論		71-90
シンポジウムⅡ 儒教と社会構造を中心に		
琉球における孔子祭祀の受容と学校	糸数兼治	93-103
韓国伝統村落における儒教と社会組織	李 海濬	105-113
理学と漢民族村落における宗族と祖先祭祀——福建省北部・樟湖鎮でのフィールド 調査を中心に——	麻 国慶	115-135
儒教思想と日本の家族——家族組織と祖先祭祀を中心に——	上野和男	137-145
討論		147-162
シンポジウムⅢ 「文化交流」研究の課題と方法		
琉球と朝鮮半島の文化交流	比嘉政夫	165-170
民俗学にとって「文化交流」研究とは何か——沖縄と中国の文化交流を事例とし て——	小熊 誠	171-181
「朝鮮民俗学」と植民地主義——「遠距離砲」としての「比較民俗学」——	南 根祐	183-197
ベトナムの文化交流の諸相	末成道男	199-209
討論		211-227

国立歴史民俗博物館 国際シンポジウム「東アジアにおける文化交流——儒教思想と民間説話——」の記録	比嘉政夫	229-232
--	------	---------

**第107集 特定研究「アイヌ文化の成立過程についてⅡ」** (2003年3月発行)

第1部 根室市弁天島遺跡発掘調査報告		
第1章 根室市弁天島遺跡について		3-5
第2章 調査の概要		
第1節 調査にいたる経緯		6
第2節 調査の経過		6-8
第3章 弁天島遺跡9号住居址と出土遺物		
第1節 9号住居址		
1. 概要		9
2. 層序		9-12
3. 住居構築の変遷		12-17
第2節 9号住居址出土遺物		
1. 土器		18-29
2. 石器		30-36
3. 骨角器		37-51
4. 動物遺体		52-67
第4章 墓坑と出土遺物		
第1節 遺構		68
第2節 出土遺物		68-69
第5章 調査のまとめ		70
引用・参考文献		71
英文要旨		72-73
写真図版		75-115
第2部 研究論文		
虹別シュワン熊送り場跡の動物遺体——コタンの熊送り場に関する動物考古学的研究——	佐藤孝雄	119-165
北海道内出土古代～近世の鉄製品の非破壊調査	永嶋正春	167-176
北海道出土鉄製刀剣類の自然科学的分析結果	齋藤 努・高塚秀治	177-188
中性子放射化分析による礼文島浜中2遺跡出土黒曜石の産地推定	戸村健児・奥水達司・西本豊弘	189-197
渡来系弥生人の拡散と縄文時代人	松村博文	199-215
アイヌ文化の形成過程をめぐる一試論——威信財もしくは ikor 的存在を考へる——	宇田川洋	217-249
明治時代のアイヌ・コレクション収集史再考——国外アイヌ・コレクションの調査結果から——	小谷凱宣	251-265
付録 特定研究の経緯・記録		
1. 特定研究「アイヌ文化の成立過程について」		269-270
2. 研究会の記録		271-272
3. 研究の成果		272

**第108集 開館二〇周年記念論文集** (2003年10月発行)

開館20周年記念論文集刊行の辞	宮地正人	
縄文時代のブタ飼育について	西本豊弘	1-15

続縄文文化と弥生文化の相互交流	設楽博己	17-44
近畿における遠賀川系甕の成立過程——摂津・河内・大和の弥生甕——	藤尾慎一郎	45-66
漢墓資料研究の方向性——長沙地域における前漢社会をモデルとして——	上野祥史	67-92
考古学からみた聖俗二重首長制	白石太一郎	93-118
更埴産古代ヒョウタン遺体	辻誠一郎	119-145
日本列島古代の城郭と都市	阿部義平	147-163
東日本の経塚の地域性	村木二郎	165-190
戦国期城郭の空間構成	千田嘉博	191-217
考古資料の偽造と誤断	春成秀爾	219-242
高精度年代測定による総合的歴史研究——現状と課題——	今村峯雄	243-256
鉛同位対比産地推定法とデータの解釈について	齋藤 努	257-279
19世紀の輸出漆器における螺鈿技法の分析	日高 薫・小瀬戸恵美	281-300
歴史研究に関する情報提供方法の検討	安達文夫・鈴木卓治・宮田公佳	301-319
展示改善にむけた観客調査の設計と実施——見学順路と滞在時間から見た観覧行動の解析——	宮田公佳・竹内有里・安達文夫	321-352
ワークシートによる家族向け教育プログラム——「れきはく親子クイズ」の実施結果から——	小島道裕	353-378
魚伏籠と水田漁撈	安室 知	379-406
ブタとイノシシ——海南島黎族の生業からみた家畜と野生動物利用に関する一考察——	西谷 大	407-422
近代の「風俗」論再考——学説史的検討——	青木隆浩	423-455
ブルターニュのトロメニ——伝説と現在——	新谷尚紀	457-511
ブルターニュのパルドン祭り——パルドンの火と夏至の火——	関沢まゆみ	513-542
「バルセロナ民俗学博物館」の「セラ・コレクション」とその背景	朝岡康二	543-562
「民俗研究映像」の現状と課題	内田順子	563-574
古代女帝の成立——大后と皇祖母——	仁藤敦史	1-17
三条西家旧蔵『延喜式』巻第五十・雑式	吉岡眞之	19-43
古代における里と村——史料整理と分析——	平川 南	45-74
院御願寺領の形成と展開——中世前期の最勝光院領を素材に——	高橋一樹	75-92
東国荘園年貢の京上システムと国家的保障体制——室町期再版荘園制論(2)——	井原今朝男	93-120
江戸における中小寺院の地縁的結合について——江戸市谷南寺町組合を素材に——	岩淵令治	121-148
幕末民衆の恐怖と妄想——駿河国大宮町のコレラ騒動——	高橋 敏	149-164
近世・近代の女性の旅について——納経帳と絵馬を中心に——	山本光正	165-181
肉筆浮世絵制作の様態——国立歴史民俗博物館所蔵「浅草風俗図巻」から——	大久保純一	183-201
旧幕臣洋学系知識人の茶園開拓——赤松則良・林洞海文書から——	樋口雄彦	203-225
第一次大戦後における一年現役兵教育	一ノ瀬俊也	227-240
木魂をめぐる祭儀と信仰——高知県、物部村の場合——	松尾恒一	241-254
息を「吹く」しぐさと「吸う」しぐさ——ウソブキとねず鳴きの呪術性——	常光 徹	255-270

**第109集** (2004年3月発行)

安政五年のコレラと吉田神社の勧請——駿州駿東郡下香貫村・深良村のコレラ騒動——	高橋 敏	1-20
広重と江戸鳥瞰図	大久保純一	21-45
箱館戦争降伏人と静岡藩	樋口雄彦	47-93
鉢叩の装いと鉦叩の装い——服飾の記号性と造形——	澤田和人	95-125
勝軍地蔵と『日輪御影』	黒田 智	127-152

記憶の比較史——震災後／テロ後、加速する「歴史」の時間論——	寺田匡宏	273-292
ジェンダーと兄弟姉妹関係——パプアニューギニアにおける女兒死亡の事例を基 に——	小谷真吾	293-319
猿倉人形芝居	稲 雄次	321-338
[研究ノート]		
展示室における観客の観覧行動と記憶および理解に関する研究	竹内有里	339-358
[調査研究活動報告]		
ボランティアに関する実践報告——企画展「異界万華鏡—あの世・妖怪・古い—」 を事例として——	内田順子・久留島浩・小瀬戸恵美・竹内有里	359-387
[資料紹介]		
呪阻方の法 式次第——小松豊孝太夫記 いざなぎ流御祈禱資料——	松尾恒一	153-204
醍醐寺焰魔堂史料三題	阿部美香	205-223
北方交流資料集（補遺）	仁藤敦史・服部一隆	225-272
研究動向		389-414
白石太郎先生を送る	阿部義平	415-416
白石太郎年譜・著作目録		417-424

### 第110集 国立歴史民俗博物館 国際シンポジウム「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」

(2004年2月発行)

はじめに	白石太郎	
セッション1. 加耶の鉄と倭国		
弥生時代の鉄	藤尾慎一郎	3-29
弁辰と加耶の鉄	東 潮	31-54
韓鍛冶と渡来工人集団	花田勝広	55-71
日本古代の鉄生産	穴澤義功	73-88
金属組織学からみた日本列島と朝鮮半島の鉄	大澤正己	89-122
加耶の鉄と倭の南北市糶	宣石悦	123-143
文献からみた加耶と倭の鉄	鈴木靖民	145-160
セッション2. 騎馬戦用の武器と馬具の受容		
古墳時代における軍事組織について	田中晋作	163-186
加耶古墳の甲冑の変化と韓日関係	宋 桂 鉉	187-224
東アジアにおける金属武器の変遷とその歴史的背景	王 巍	225-246
6世紀以前の東アジアの鉄製甲冑——古代中国の甲冑と古代朝鮮・日本の甲 冑——	楊 泓	247-261
加耶と倭の馬具	金斗喆	263-281
日本出土の「非新羅系」馬装具の系譜——大加耶圏の馬具との比較を中心に——	千賀 久	283-307
セッション3. 考古資料からみた加耶と倭		
加耶と倭の交流——古墳時代前・中期の土器と集落——	武末純一	311-338
須恵器生産のはじまり	酒井清治	339-365
韓国の倭系遺物——加耶地域出土の倭系遺物を中心に——	高久健二	367-402
韓半島南部出土鏡について	上野祥史	403-433
金官加耶と倭	洪 漕 植	435-460
大加耶と倭	朴 天 秀	461-480
セッション4. 加耶と倭の交流とその歴史的意義		
もう一つの倭・韓交易ルート	白石太郎	483-502
考古資料からみた朝鮮諸国と倭	吉井秀夫	503-518

文献よりみた古代の日朝関係——質・婚姻・進調——	仁藤敦史	519-531
加耶諸国の対外関係史の論点と視点	李永植	533-547
加耶史軽視論への批判	金泰植	549-578
「広開土王陵碑文」からみた加耶と倭	白承忠	579-608
共同研究と国際シンポジウムの記録	白石太一郎	609-616

**第111集 大和における中・近世墓地の調査** (2004年2月発行)

はしがき	白石太一郎	
第1部 宇陀・都祁地域における中・近世墓地の調査		
第1章 調査・研究の目的と経緯		
第1節 調査に至る経緯と調査の目的	白石太一郎	3-4
第2節 調査の方法	朽木量	4-6
第3節 調査の経緯	千田嘉博	6-7
第2章 奈良県宇陀地域における墓地の調査		
第1節 口宇陀地域における墓地の状況	白石太一郎	8-12
第2節 入谷墓地の調査	千田嘉博・朽木量	12-16
第3節 まとめ	白石太一郎	17-18
第3章 奈良県都祁地域における墓地の調査		
第1節 吐山地区における墓地の現状	千田嘉博	19-21
第2節 吐山地区の墓地に関する既往の調査と研究	白石太一郎	21-22
第3節 ドサカ墓地の調査	朽木量	23-27
第4節 春明院墓地の調査	朽木量	27-31
第5節 ムシロデン墓地の調査	朽木量	31-34
第6節 まとめ	白石太一郎	34-35
第2部 奈良盆地における郷墓の調査		
第1章 調査・研究の目的と経緯		
第1節 調査に至る経緯と調査の目的	白石太一郎	39
第2節 調査対象地の選定と調査の内容	白石太一郎	39-42
第3節 調査の方法	朽木量	42-44
第4節 調査の経緯	村木二郎	44-45
第2章 奈良県新庄町平岡極楽寺墓地の調査		
第1節 平岡極楽寺墓地の位置と歴史的環境	千田嘉博	46-50
第2節 墓地の状況	吉澤悟	51-55
第3節 石塔の構成と分析	吉澤悟	56-65
第4節 平岡極楽寺墓地の成立と展開	白石太一郎	65-69
第3章 奈良県天理市中山念仏寺墓地の調査		
第1節 中山念仏寺墓地の位置と歴史的環境	白石太一郎	70-71
第2節 墓地の概要	吉澤悟	71-79
第3節 墓地の現況	吉澤悟	79-100
第4節 石塔の構成と分析	吉澤悟	100-118
第5節 中山念仏寺墓地の成立と展開	白石太一郎	118-121
第3部 付論		
戒名・法名考——奈良・京都の墓標資料から——	関口慶久	125-146
石塔造立からみた惣墓の形成過程	村木二郎	147-159
奈良盆地とその周辺地における近世石塔の造立傾向について	吉澤悟	161-179
奈良県山辺郡・宇陀郡の五輪塔調査	設楽博己・村木二郎・村木志伸	181-190

竹田聰洲氏の吐山地域文献調査の再検討——中森健彦家文書目録（稿）——	幡鎌一弘	1-24
奈良県宇陀郡菟田野町入谷の文献調査概要——森本忠夫家文書目録（稿）・藤村秀也家文書目録（稿）——	幡鎌一弘	25-75
総括——調査成果の総括と今後の課題——	白石太一郎	191-195
英文要旨		196-203
付表		
菟田野町入谷墓地石塔データ		207-209
都祁村吐山トサカ墓地石塔データ		210-223
都祁村吐山春明院墓地石塔データ		224-229
都祁村吐山ムシロデン墓地石塔データ		230-233
新庄町平岡極楽寺墓地石塔等データ		234-285
天理市中山念仏寺墓地石塔データ		286-428
図版・写真		429-562

## 第112集 地域社会と基層信仰 共同研究「地域社会における基層信仰の歴史的研究」

(2004年2月発行)

### 第一部 地域社会におけるカミ祭祀と葬墓制

中・近世の大和における墓地景観の変遷とその意味	白石太一郎	3-24
石塔の多様化と消長——天理市中山念仏寺墓地の背光五輪塔から——	村木二郎	25-62
中近世移行期における寺院と墓	幡鎌一弘	63-88
墓郷形成の前提——大和・結崎墓地の周辺——	今尾文昭	89-118
中近世村落における宮座の変質と再編——結衆、長男衆、そして神楽講——	菌部寿樹	119-156
大和における融通念仏宗の展開——特に宇陀地域を中心に——	稻城信子	157-185
村落社会と社寺と墓地——両墓制概念の克服：奈良県都祁村吐山の事例分析より——	新谷尚紀	187-261
墓郷・水郷・宮郷をめぐる民俗学的考察——奈良盆地南西部・吐田郷の事例より——	関沢まゆみ	263-313
奈良県東北部村落における宮座の組織と儀礼——室生村多田・染田を中心に——	上野和男	315-330
斑鳩町竜田神社の氏子区域にみる祭礼の諸相——服部と北庄の場合——	大宮守人	331-353

### 第二部 基層信仰の諸相

再葬の背景——縄文・弥生時代における環境変動との対応関係——	設楽博己	357-380
出雲国造と変若水	和田 萃	381-403
中世荘園と墓地・葬送	高橋一樹	405-426
戦国期の城下町構造と基層信仰——上井覚兼の宮崎城下町を事例に——	千田嘉博	427-449
墓標からみた近世の寺院墓地——神奈川県平塚市大神真芳寺墓地の事例から——	朽木 量	451-463
近世東北の「家」と墓——岩手県前沢町大室鈴木家の墓標と過去帳——	関口慶久	465-485
寺元慣行をめぐる	朴澤直秀	487-499
洛北における盆の風流灯籠踊り	福原敏男	501-520

### 資料編

服部神楽講文書の世界	大宮守友	523-542
服部神楽講文書	大宮守友・菌部寿樹	543-592
御宮司家文書目録	大宮守人・菌部寿樹・幡鎌一弘・福原敏男	593-608
福貴田家文書目録	大宮守人・菌部寿樹・幡鎌一弘・福原敏男	609-615
共同研究の概要と経過	白石太一郎・村木二郎	617-622

**第113集 古代・中世における流通・消費とその場 共同研究「日本における都市生活史の研究」A班第二期** (2004年3月発行)

共同研究の経緯と成果・課題	桜井英治・小島道裕	1-8
一 交易・流通の理解		
日本古代の交易者——目的とその類型——	中村太一	11-33
一五・一六世紀における流通・海運の変革——東海地方港津遺跡の検討——	尾野善裕	35-51
二 物価と消費		
中世における物価の特性と消費者行動	桜井英治	55-80
釘の「連」	山本紀子	81-88
兵庫北関入船納帳にみえる関銭をめぐる考察——升米説の再検討——	藤田裕嗣	89-109
三 流通・消費の場		
中世後期の旅と消費——『永禄六年北国下り遺足帳』の支出と場——	小島道裕	113-134
港町の成立過程をめぐって	宇佐見隆之	135-148
中世の都市における店舗の建築	後藤 治	149-166
四 貨幣をめぐる		
日本古代の銭貨出挙についての覚書	三上喜孝	169-180
京都における「銀貨」の成立	中島圭一	181-192
一六世紀後期の京都大徳寺の帳簿資料からみた金・銀・米・銭の流通と機能	田中浩司	193-212
五 家政と生産		
「長屋王家」の家産と家政機関について	仁藤敦史	215-229
古代都城の金属器生産	杉山 洋	231-242
中世都市奈良と土器——『大乘院寺社雑事記』にみるその認識と評価——	山川 均	243-260
資料紹介 東京大学文学部所蔵『文明十七年山科家年貢散用帳』	宇佐見隆之	261-267
[付・データベースの作成]		
古代・中世都市生活史データベースの構築	中村太一	269-291

**第114集 共同研究「つくり物」の総合的研究** (2004年2月発行)

共同研究の経緯と概要	日高 薫	1-4
造花東漸——中国から日本へ——	稲城信子	5-20
大嘗会の作り物——標の山の起源と性格——	東野治之	21-32
近世大坂の「つくりもの」——砂持・正遷宮を中心に——	相蘇一弘	33-63
鹿児島城下諏訪神社祭礼の練物風流と太鼓踊り	福原敏男	65-88
庭風流・破子風流・調度風流	泉 万里	89-103
四季竹図屏風について	加藤悦子	105-128
つくり物・置物・美術	日高 薫	129-154
「ウツス」ということ——北海道芦別健夏山笠の博多祇園山笠受容の過程——	福間裕爾	155-226
キリスト生誕の小型群像とサクロ・モンテ	坂本 満	1-23
装飾とかざり——18世紀後期日本の文脈からの考察——	玉蟲敏子	25-40

**第115集 大原幽学と東総村落社会 共同研究「地域社会・文化の諸相と基層信仰」**

(2004年2月発行)

東総地域社会史と大原幽学研究——成果と反省にかえて——	高橋 敏	1-3
大原幽学と性学教団		
大原幽学の基礎的考察——大原幽学全書・全集本の検討「奉行所本」を中心に——	鈴木映里子	7-38

大原幽学と性学門人集団——前夜組織の成立と展開——	松丸明弘	39-60
大原幽学と改心楼の造営	高橋 敏	61-82
香取郡山田町所在性学墓の測量調査報告	栗田則久	83-100
大原幽学門人の墓について	米谷 博	101-128
諸徳寺村永命寺末寺引直し一件	朴澤直秀	129-137
吠とカマス——東総地域の生活習俗と大原幽学——	川上順子	139-158
東総村落社会史		
正徳・享保期における下利根川中流域の漁業と村々	後藤雅知	161-176
銚子における「旅漁師」と「旅商人」の定着過程に関する一考察	阿部綾子	177-192
九十九里浜大地曳網漁業地帯における土地の移動の実態と性格——飯高家文書「田畑奥印帳」の検討——	岩田みゆき	193-208
安政期常陸国土浦町における検地—その顛末と意義——	木塚久仁子	209-223
東総地域の教育環境における飲酒——筆子塚の分析を中心に——	川崎史彦	225-276
近代日本の教育と青年——干潟地域の井上勇治郎を中心に——	鈴木秀幸	277-297
近世・近代の東総における相模大山信仰——参詣講の再編成をめぐる諸問題——	菅根幸裕	299-323
共同研究の経過と概要	高橋 敏	325-328

**第116集 共同研究「地域蘭学の総合的研究」** (2004年2月発行)

地域蘭学の構想と展開	青木歳幸	1-18
第一部 医学と蘭学		
アジアにおける種痘	田崎哲郎	21-36
地域蘭学研究からの問題	塚本 学	37-51
会津藩における種痘の普及と民俗	酒井耕造	53-73
幕末期弘前藩における種痘の受容と医学館の創立	福井敏隆	75-90
江戸の蘭学者——文政期『医家人名録』の分析から——	海原 亮	91-108
第二部 蘭学の地域的展開と交流		
木村兼葭堂の交友と知識情報	有坂道子	111-125
幕末期在村蘭方医の医療と社会活動——清家堅庭の足跡——	井上 淳	127-154
長州藩における牛痘種痘法の導入と普及	小川亜弥子	155-178
加賀の技術文化と地域蘭学	本康宏史	179-208
薩摩藩における蘭学受容とその変遷	田村省三	209-234
福岡藩の蘭学者青木興勝の長崎遊学と対外認識	松本英治	235-254
佐倉順天堂門人とその広がり——門人帳にみる門人とその史料をめぐる——	土佐博文	255-274
幕末維新期の在村蘭方医関島良致の軌跡	青木歳幸	275-300
幕末明治初期の埼玉県域における種痘の様相	細野健太郎	301-315
近世後期における患者の医師選択——『鈴木平九郎公私日記』を中心に——	長田直子	317-342
幕末・明治初年の庄内川北地域における医者——ある医者の軌跡から——	岩淵令治	343-374
第三部 門人帳をめぐる問題		
芝蘭堂の門人たち——蘭学の地域的広がりを中心に——	鈴木幸彦	377-406
越中高岡蘭方医の研究	正橋剛二	407-450
春林軒「門人録」について	高橋克伸 校訂	451-477
地域蘭学者門人帳データベースについて	青木歳幸・長田直子・細野健太郎	479-495
資料編		
華岡家所蔵「門人録」翻刻資料	高橋克伸	498-537
本共同研究の組織と研究会の開催記録	岩淵令治	539-540

**第117集 共同研究「民俗学的画像に関する基礎的研究」**(2004年2月発行)

共同研究の経過と概要	朝岡康二	1-5
画像技術と歴史民俗学研究	安達文夫・新谷幹夫	7-22
デジタル画像の利用の試み——伝承的な仕事と身体活動をめぐって——	朝岡康二	23-55
デジタル書誌学の諸課題	久須美雅昭	57-80
動画像による記録方法の研究——伝統技術、民俗芸能、祭礼の記録作業体験から得られた撮影・編集方法——	孝寿 聡	81-101
「江戸図屏風」とデジタル画像	照井武彦	103-123
商店街の出現と発達——大阪市の千林商店街を事例として——	石村真一	125-183
民俗的古式技術の存在とその意味——特に編組技法について——	名久井文明	185-240
歴史資料のデジタル化——画像資料を例として——	富澤達三	241-249
雨乞の灯火風流——幕末兵庫津の事例——	福原敏男	251-268
長谷川雪旦筆「四季耕作図屏風」の基礎的検討	河野通明	269-302

**第118集 共同研究「日本歴史における災害と開発Ⅱ」**(2004年2月発行)

共同研究の経過と概要	平川 南	1-6
鎌倉の地形発達史	上本進二	7-24
鎌倉滑川河道の再検討	南出眞助	25-41
出土遺物からみる鎌倉の開発——鎌倉時代前半を中心に——	齋木秀雄	43-58
横須賀市平作川低地の環境変遷と中世の開発について	中三川昇	59-75
利根川中下流域における歴史時代の河道変遷——埼玉県東北部、幸手市周辺の微地形を手がかりとして——	久保純子	77-91
東京低地北部毛長川周辺の地形環境と遺跡立地——伊興遺跡を取り巻く環境——	村石眞澄	93-117
江戸の原型と都市開発——作り替えられる水域環境——	後藤宏樹	119-135
東京低地東部の景観——葛西における景観的特徴とその変貌——	谷口 榮	137-164
南軽井沢地域の浅間火山テフラ層序と編年——環境・災害史研究の基礎として——	辻誠一郎・宮地直道・新井房夫	165-192
干拓以前の潟湖とその機能——椿海と下総の水上交通試論——	青山宏夫	193-217
柳之御所遺跡の変遷	羽柴直人	219-251
中世都市鎌倉以前——東の海上ルートの実相——	平川 南	253-281
災害より見た中世鎌倉の町	福島金治	283-300
江戸のゴミ処理再考——“リサイクル都市”・“清潔都市”像を越えて——	岩淵令治	301-336
災害と開発の税制史——日本中世における土地利用再生システム論の提起——	井原今朝男	337-363

**第119集 国際シンポジウム「東アジアにおける農耕社会の形成と文明への道」**(2004年3月発行)

第3回国立歴史民俗博物館国際シンポジウム

「東アジアにおける農耕社会の形成と文明への道」	春成秀爾	1-7
序論		
東アジアにおける農耕の起源と拡散	甲元眞之	11-30
日本の青銅器文化と東アジア	春成秀爾	31-49
I部 農耕社会の形成		
黄河流域における農耕の起源——現象と仮説——	陳 星燦	53-56
中国史前農業・経済の発展と文明の起源——黄河、長江中・下流域を核として——	張 弛	57-78
中国古代農耕社会における家畜化の発展過程について	袁 靖	79-85
極東ロシアと中国周縁部における初期農耕社会の起源	S. V. アルキン	87-95

韓国農耕社会の成立	安 在 皓	97-116
日本の穀物栽培・農耕の開始と農耕社会の成立——さかのぼる穀物栽培と生産経済への転換——	藤尾慎一郎	117-137
農耕開始の要件——西アジアの事例から——	常木 晃	139-153
西アジア型農耕の西方展開	三宅 裕	155-156
ギリシア半島の初期農耕社会	K. コチャーキス	157
南部中央ヨーロッパ最後の中石器狩猟採集民と新石器化	W. シュタインハウス	159-176
総括	常木 晃	177-179
II 部 都市——文明への道 1 ——		
中原を中心とした歴史趨勢の形成	趙 輝	183-194
中国における都市の生成	中村慎一	195-210
国家成立と周辺地域における自然利用の変容——アーキエスノロジー的方法論による一考察——	西谷 大	211-230
朝鮮半島の文明化——鉄器文化と衛満朝鮮——	崔 夢龍	231-246
メコン河流域の文明化前史	新田栄治	247-262
日本の文明化	広瀬和雄	263-283
メソポタミアの初期複合社会——最近の研究成果と派生する問題——	G. M. シュワルツ	285-296
エトルリアにおける国家の形成	S. ストッダート	297-306
ブリテン鉄器時代と日本	新納 泉	307-310
西洋と東洋の「都市」成立のプロセス——日英の比較を中心として——	宇野隆夫	311-337
総括	中村慎一・宇野隆夫	339-342
III 部 世界観・国家——文明への道 2 ——		
文明への道——中国の場合——	量 博満	345-348
中国初期国家の形成過程	岡村秀典	349-363
中国初期中央王朝の形成と発展——中原青銅文化伝統の形成原因からの考察——	孫 華	365-379
韓国における農耕社会の儀礼と世界観	李 相吉	381-387
青銅儀礼具の日・韓の差異	後藤 直	389-393
日本列島の文明化をめぐる——弥生時代から古墳時代へ——	白石太一郎	395-406
古代日本の世界観——天下・国・都城——	仁藤敦史	407-423
総括	後藤 直・広瀬和雄	425-428
全体討論	春成秀爾	431-434
付録		
現地見学会	設楽博己	437-444
共同研究「東アジアにおける農耕文化の成立と拡散」の概要	藤尾慎一郎	445-447
<b>第120集 共同研究「歴史資料の多角化と総合化」(2004年3月発行)</b>		
共同研究の経緯・記録	杉山晋作	1-12
第1部 縄文土器の生産と流通		
前言	西本豊弘	15-16
東信・北関東地方の中期中葉土器群の編年的・年代的 position 付け		
長野県から群馬県にかけての地域の縄紋中期中葉土器の編年研究	小林謙一	19-35
焼町土器の炭素14年代と暦年較正	小林謙一・今村峯雄・坂本 稔	37-55
型式学的検討		
千曲川流域の縄文時代中期中葉の土器——「焼町土器」、および北関東地域との関係を中心に——	寺内隆夫	59-86
群馬県における「焼町類型」の位置——異系統土器共存の一視角——	山口逸弘	87-108

栃木県南部域の土器と焼町土器——分布圏外出土の焼町土器——	塚本師也	109-145
東信・北関東地方の縄紋中期中葉土器の生産と流通についての予察	小林謙一	147-182
土器胎土の自然科学的分析		
胎土分析の試料と分析方法	建石 徹・水沢教子	185-193
縄文時代における粘土の選択性	建石 徹	195-217
縄文土器の混和材——長野県川原田遺跡出土土器の分類への視点——	清水芳裕	219-236
岩石・鉱物からみた素地土採集領域——長野県川原田遺跡出土土器の 偏光顕微鏡観察から——	水沢教子	237-265
ベリリウム同位体による縄文土器胎土のグルーピング——長野県川原田遺跡出土 の土器について——	坂本 稔・今村峯雄	267-275
第2部 猿田Ⅱ遺跡の調査		
第1章 調査の契機と経緯	杉山晋作	291-292
第2章 遺跡の地理的歴史的環境	志村 哲	293-297
第3章 調査区の概要と調査経過	荻原 禎	299-302
第4章 検出遺構と遺物	杉山晋作・荻原 禎・伝田郁夫・日高 慎・山田俊輔	303-443
第5章 自然科学的分析結果	杉山晋作・辻誠一郎・今村峯雄	445-448
第6章 まとめ	山田俊輔・日高 慎・杉山晋作・志村 哲	449-481
図版		483-515
<b>第121集</b> (2005年3月発行)		
中近世移行期の『鉄炮之大事』・『南蛮流秘伝一流』にみる技術と呪術	井原今朝男	1-43
近世博多祇園山笠における当番町制度と当番費用徴収法	宇野功一	45-104
『日本名山図会』と浮世絵の風景表現	大久保純一	105-129
霊元院仙洞における歌書の書写活動について	酒井茂幸	131-163
名主座における村落内身分の研究	藪部寿樹	165-182
時間と歴史表象——ミュージアムにおけるその表現の試み／阪神大震災を中心とし て——	寺田匡宏	183-197
旧幕府陸軍の解体と静岡藩沼津兵学校の成立	樋口雄彦	199-223
古代城柵の研究(一)——城柵官衛説の批判と展望——	阿部義平	257-284
東京府における明治天皇聖蹟指定と解除の歴史	北原糸子	285-338
市のたつ街——交易からみた多民族の交流——	西谷 大	339-400
[研究ノート]		
〔公募型企画展示〕「ドキュメント災害史1703-2003 地震・噴火・津波、 そして復興」の記録——展示の過程と構成——	西谷 大	401-421
[博物館研究活動報告]		
博物館教育員実習の試行(2000～2003)	小島道裕	423-432
立ちこめる記憶の重さ——ドイツ・ポーランド・イギリスのミュージアムに おける戦争——	寺田匡宏	433-454
[資料紹介]		
小松豊孝太夫記いざなぎ流御祈禱資料『日月祭、託宣作法』	松尾恒一	225-255
阪神大震災と語り——映像「風が運んだ救援隊2003」について——	寺田匡宏	455-473
高橋敏先生を送る	久留島浩	475-477
高橋敏年譜・著作目録		478-483
<b>第122集 平田国学の再検討(一) 「平田家資料」翻刻 解題(一)</b> (2005年3月発行)		
一 気吹舎日記	吉田麻子・宮地正人	3-73

二 両親宛平田延胤書簡（一）（明治元年一月～三年三月）	熊澤恵里子	75-112
三 三河関係平田家宛書簡	田崎哲郎	113-126
四 特別展示「明治維新と平田国学」出陳史料解題並翻刻		127-221
<b>第123集 共同研究「環境利用システムの多様性と生活世界」（2005年3月発行）</b>		
共同研究の経過と課題	安室 知	1-10
エコトーンとしての潟湖における伝統的生業活動と「コモンス」—近世～近代の 八郎潟の生態系と生物資源の利用をめぐる—	佐野静代	11-34
暮らしの中の川—阿賀野川流域千唐仁の生活文化とその変容—	関 礼子	35-48
水田漁撈と現代社会—環境思想とフォークロリズムの交錯—	安室 知	49-83
ブタはどのようにして現金になりうるのか？—パプアニューギニア高地辺縁部に おける生業生態と貨幣経済—	小谷真吾	85-102
水資源をめぐるムラの経験と規範	柏木亨介	103-127
近世漁場の占有・利用と自然生態との関わり—近世五島、天草の争論史料と 絵図から—	橋村 修	129-152
奄美大島北部、笠利湾における貝類知識—エリシテーション・データを とおした人・自然関係の記述—	飯田 卓・名和 純	153-183
生業活動における資源分配の構造と出かせぎ—青森県内の二つの漁業集落を 事例として—	葉山 茂	185-218
中世記録地名の環境語彙分析—肥後国阿蘇郡湯浦郷の「山野境注文」を素材 に—	春田直紀	219-252
環境資源の入会利用・管理に関する日英比較—共同的な環境保全に関する 民際研究に向けて—	三俣 学・室田 武	253-323
山菜の採取地としてのエコトーン—兵庫県旧篠山町と岩手県沢内村の 事例からの試論—	齋藤暖生	325-353
産業構造の異なる地方都市近郊集落における周辺自然環境利用の変化と野生獣出現 との関連性についての比較検討	小笠原輝・後藤敬寛・本郷哲郎	355-374
香具師系露天商集団にみられる「なわばり」の運用	厚 香苗	375-395
川辺の生活世界—サクラマス漁をめぐる越後荒川の現在—	出口晶子	397-421
近世山間地域における環境利用と村落—信濃国秋山の生活世界から—	白水 智	423-449
災害と語り—悲劇としての三陸津波の記憶表象とその分析方法に関する試論—	寺田匡宏	451-473

**第124集 都市の地域特性の形成と展開過程Ⅱ 共同研究「日本における都市生活史の研究」B**

**班第二期**（2005年3月発行）

都市の地域特性の形成と展開過程・序論—基幹研究「日本における都市生活史の 研究（第二期）」の研究概要—	上野和男	1-11
佐原祭礼の変遷と周辺の都市祭礼	飯塚 好	13-32
佐原のシンノミ畑—地方都市近郊の野菜栽培と行商—	小林裕美	33-57
近世在郷町における祭礼の成立と展開—下総国佐原村本宿の豪家・村組・町—	宇野功一	59-99
近代都市祭礼における神輿巡行と山車巡行の分離過程—千葉県佐原市新宿の 諏訪祭礼を例に—	宇野功一	101-161
山車祭りにおける神輿渡御の変容—佐原市本宿の祇園祭を事例にして—	小笠原尚宏	163-181
朝鮮半島系住民集住地域の都市民俗誌—福岡市博多区・東区の事例から—	島村恭則	183-251
都市地域特性と映像民俗誌の作成—佐原の映像民俗誌制作をめぐる諸問題— 〔調査研究活動報告〕	上野和男	253-299
利根川下流域における言語の動態	中井精一	301-335

**第125集** (2006年3月発行)

近代博多における個別町の社会構造と祇園山笠経営——昭和10年代の西町流古溪町を例に——	宇野功一	1-46
忠臣蔵物の錦絵と泉岳寺	大久保純一	47-68
帷子の基礎研究——室町時代から江戸時代初期に於ける材質の変遷について——	澤田和人	69-99
ポーランド国立アウシュビッツ-ビルケナウ博物館の現象学——島尾敏雄の記述によるミュゼオグラフィの試み——	寺田匡宏	101-117
大原幽学没後門人と明治の旧幕臣	樋口雄彦	119-154
情報資源共有化のための博物館資料——データベースのマッピングとその評価——	安達文夫・鈴木卓治・小島道裕・高橋一樹	187-216
平城京の都市設計	阿部義平	217-235
肖像図蒔絵プラークの原図に関して	日高 薫	237-259
[研究ノート]		
雲南国境地帯の棚田——アール族とヤオ族の灌漑システム	西谷 大	261-282
[資料紹介]		
小松豊孝太夫記 いざなぎ流御祈禱資料『仏法の作法』	松尾恒一	159-185

**第126集 共同研究「近代日本の兵士に関する諸問題の研究」** (2006年1月発行)

共同研究の概要と経過	一ノ瀬俊也	1-2
小普請の軍事的再編と静岡藩勤番組への帰着	樋口雄彦	3-32
宇垣軍縮での師団廃止発覚時における各“該当地”の動向	佃隆一郎	33-51
一九三〇年代における海軍の宣伝と国民的組織整備構想——海軍協会の発達とその活動——	土田宏成	53-66
軍事郵便の基礎的研究(序)	新井勝紘	67-85
集合的記憶のポリティクス——沖縄におけるアジア太平洋戦争後の戦没者記念施設を中心に——	栗津賢太	87-118
餓死の鳥をなぜ語るか——メレヨン島生還者たちの回想記——	一ノ瀬俊也	119-131
新沖縄県平和祈念資料館設立をめぐる	荒川章二	133-190
各国の戦争展示——政治と「ミュージアム」の関連から——	森山 優	191-211
[資料紹介]		
独立歩兵第六二八大隊資料	村瀬隆彦	213-327

**第127集 共同研究「中世都市の調査分析方法に関する研究」** (2006年3月発行)

共同研究の経緯と概要	小野正敏	1-5
中近世移行期における町場の空間構成——甲州における近世初期検地帳による屋敷形態の比較分析——	伊藤裕久	7-24
戦国期の都市消費を支えた陶器生産地の対応——越前焼を例に——	小野正敏	25-52
戦国期城下町研究の視点と方法——相模国小田原を事例としたその実践的考察——	市村高男	61-134
肥前名護屋城下町の空間構造とその特異性	宮武正登	135-178
[事業報告]		
「日本中世都市データベース(案)」		
「日本中世都市文献目録データベース(案)」について	小島道裕	53-59

**第128集 平田国学の再検討(二) 「平田家資料」翻刻 解題(二)** (2006年3月発行)

一 気吹舎日記	吉田麻子・宮地正人	5-388
---------	-----------	-------

二 両親宛平田延胤書簡(二)	熊澤恵理子	422-493
三 天保二年平田鍊胤『三州行日記』及び人物注釈	田崎哲郎	495-504

**第129集 特定研究「東国の豪族居館」——茨城県常総市国生本屋敷遺跡発掘調査報告——**

(2006年3月発行)

阿部義平

[第一部] 本文編		
第一章 特定研究「東国の豪族居館」の研究計画と成果概要		2-14
第二章 先行する研究と調査の成果(国生本屋敷遺跡関係)		15-48
第三章 歴博特定研究による国生本屋敷遺跡発掘調査成果		49-143
第四章 国生本屋敷遺跡を巡る考察		144-174
付 章 遺物観察表		175-191
[第二部] 図版編		193-362

**第130集** (2006年3月発行)

展示の理解の評価に関する検討	安達文夫・竹内有理・小島道裕・久留島浩	1-20
古代城柵の研究(二)——城郭の成立と機能——	阿部義平	21-95
三角援青銅戈の雲南への伝播と変容——日本青銅戈との類似的要素の比較を含めて——	印 群	97-118
韓国全羅道出土青磁の胎土に含まれるジルコンを用いた産地推定の試み	小瀬戸恵美	119-139
市はなぜたつのか——雲南国境地帯の定期市を事例として——	西谷 大	141-180
室町殿の徳政について	榎原雅治	219-237
『広幢集』考——猪苗代家の源流を求めて——	酒井茂幸	239-258
[資料紹介]		
胎児・幼児の語りと震災の記憶——インタビュー映像「Die Kindheit in Kobe(神戸の幼年時代)」について——	寺田匡宏	181-193
宮地正人さんを送る	吉岡真之	195-196
宮地正人年譜・研究集積目録		197-201
『国立歴史民俗博物館研究報告』(第101集～第130集)総目次		203-218